

5. 二度切り栽培による12月加温アレキの生産安定

[要約]

12月加温アレキでは、冬季せん定時に5～7芽でせん定し、収穫後に1芽で夏季せん定する二度切り栽培によって、発芽が早く生育が旺盛となり、花穂数が増加することから収量増加が期待できる。

研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0271（内線230）
------	-------	-----	---------------------

[背景・ねらい]

アレキ12月加温作型では、休眠の深い時期に加温を開始しするため、発芽が不ぞろいになりやすく結果枝の生育が弱い。また、花穂の退化が多く生産が不安定である。そこで、花芽の充実した節位でせん定する整枝体系を確立する。

[成果の内容・特徴]

12月加温開始前のせん定節位を5～7芽とした。12月加温の収穫2週間後頃に、結果母枝の1芽の位置で夏季せん定し、せん定した芽と切り口にシアナミド処理した。発芽再生した新梢を次年の12月加温時の結果母枝とした(図1)。

1. 5～7芽せん定では慣行より早く発芽し、花穂数が増加した(表1)。
2. 5～7芽せん定では慣行より生育が前進するだけでなく、生育が旺盛となった(図2)。
3. 5～7芽せん定では花穂数の増加し、収量が増加した(表2)。
4. 夏季せん定後には、発芽促進のためにシアナミド処理が必要であった。
5. 二度切り栽培で連続して12月加温しても収量は安定していた。

以上の結果から、樹勢のやや弱いアレキ12月加温で冬季に5～7芽でせん定し、収穫後1芽で夏季せん定する二度切り栽培は、生育改善及び生産安定に有効な技術であり、収量増加が期待できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 適用場面として樹勢がやや弱く、花穂が退化する傾向のある樹を想定した技術で、樹勢の強い樹では適用の必要はない。
2. 夏季せん定後は、原則として花穂を摘除する。
3. 夏季せん定及び夏枝管理には慣行枝管理より労力がかかる。

[具体的データ]

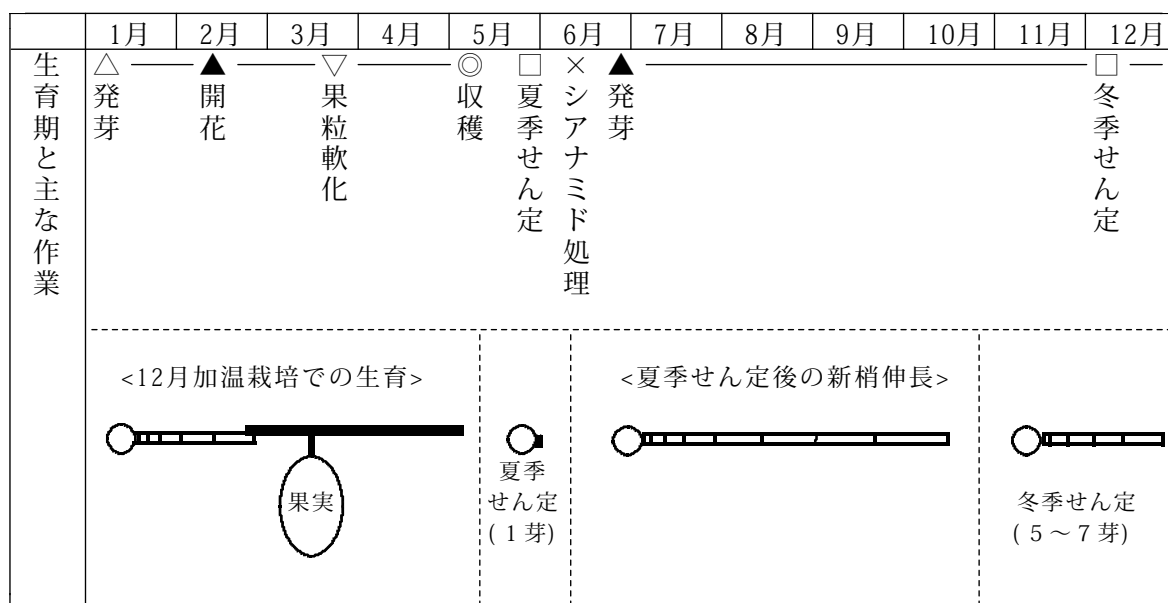


図1 二度切り栽培によるアレキ12月加温栽培体系

表1 せん定節位と12月加温における発芽率、花穂数

	加温25日後 発芽率(%)	正常花穂数 (／結果枝)
5芽	49.5	1.76
1芽(慣行)	19.7	1.13

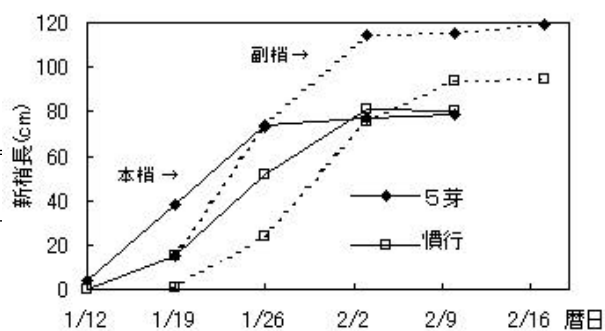


図2 せん定節位と12月加温アレキの新梢の生育

表2 せん定節位と12月加温アレキの果実品質

	収量 (kg/□)	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (brix)
5芽	1.44	521	10.1	19.1
1芽(慣行)	1.04	409	9.4	17.8

[その他]

試験研究課題・事業名：環境制御技術によるアレキ極早期加温栽培の良品多収技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成8～12年度

関連情報：平成10試験研究主要成果「シアナミドによるブドウの発芽安定」